

受賞のことば

日本小児循環器学会では平成27年より公益財団法人宮田心臓病研究振興基金からの寄付を受け、「Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞」を設立しました。7回目となる本年度は**白神一博先生**（東京大学小児科）、**永井礼子先生**（北海道大学小児科）が受賞され、7月の学術集会時に表彰式が開催されました。



白神 一博 先生

東京大学小児科

この度は、第7回Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞をいただき、公益財団法人宮田心臓病研究振興基金の方々、選考いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

我々の研究テーマは「ペースメーカー植込後の小児でもMRI撮影を可能にする」です。小児循環器領域の患者さんでは、心臓MRIによる循環動態・心血管機能評価や、発達段階の問題に関連して頭部MRI

の撮影が必要になることが多いですが、ペースメーカー本体はMRI対応となっても、小児で広く用いられる心外膜ペースメーカーリードがMRI禁忌となっているために、ペースメーカー植込後にMRIを撮れず忸怩たる思いをすることがよくあります。

一方で、成人で用いられることの多い経静脈リードはMRI対応製品が開発され、成人ではペースメーカー植込後もMRI撮影が可能になっています。経静脈リードは、主にコンピューターシミュレーションによる安全性の証明によりMRI対応となりました。

走行パターンが限定される経静脈リードと比して、心外膜リードは走行パターンが無数にあることや体格のバリエーションに富むことが難点ですが、証明の仕方を工夫しながら安全性を示し、MRI撮影への道を開きたいと考えています。

医学の発展にわずかでも貢献し、患者さんへ研究成果を還元できるように精進してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

永井 礼子 先生

北海道大学小児科

この度は、第7回Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞を受賞させていただき、まことに光栄に存じます。宮田宏章理事長をはじめ、公益財団法人宮田心臓病研究振興基金の皆様、そして選考委員の先生方に深く御礼申し上げます。

この度の受賞テーマは「重症末梢性肺動脈狭窄症

の小児例における、新規原因遺伝子の同定と発症機序の解明」です。小児期における末梢性肺動脈狭窄症の発症メカニズムを見出そうとさまざまなアプローチを行うとともに、これまで自身が研究テーマとしてきた肺高血圧症と末梢性肺動脈狭窄症との関わりについても探求を試みているところです。しっかり結果を出し、臨床現場に還元できるように今後も鋭意努力していく所存です。今後何卒ご高配くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。